

畫本西遊全傳

四編

五

西遊記

八遠山  
2500  
40-35



遠 24 冊  
2500  
40-35

# 皇朝戰略編

尾張園陵宮田生著

全部十五卷

前帙八冊  
後帙七冊

此書者遠く天慶、始平、將門、亂、東國、作、始、道、元、永、末、島、原、賊、徒、西、海、二、殊、威、セ、レ、レ、ニ、至、迄、前、後、凡、七、百、有、余、年、ノ、間、名、將、良、主、英、雄、豪、傑、ノ、奇、戰、妙、畧、跡、法、則、ト、テ、ル、ハ、千、ヲ、數、多、ク、史、乘、ヨリ、撰、ト、出、シ、武、學、ノ、用、ニ、備、ハ、タル、者、ニ、シ、テ、實、ニ、兵、家、ノ、龜、鑑、タル、ト、云、ヘ、シ、名、將、ノ、勝、ヲ、製、ス、ル、術、ノ、覺、リ、又、國、家、興、廢、ノ、由、ル、所、以、テ、知、ル、ヘ、キ、者、ハ、此、書、ニ、如、ク、無、レ、ト、云、

大阪書肆 心齋橋通北久等町 河内屋源七郎梓

繪本西遊記四編卷之五

岳亭丘山譯

師獅授受同歸一

盜道纏禪靜九靈

不支時一羣の妖精城外へ倚来し八戒當頭へ上前出  
て置て曰く寶貝を偷る賊怪這般の幾個の毛團と同く  
爰ゆ未の何幹ぞや黄獅精牙を咬で怒て曰く向日我一  
個你們二個の敵難く你們の勝を譲る退きしや你們が  
傍侍り然るも你們我洞府を焼我眷属を殺し十分の  
根惡を倣此根大海より深し我今你們を饒んやし勿心ち  
四明鏡を奉て跪し羅の八戒を斬んと凡八戒釘鉈を拿  
展て是れ敵の兩個陣前中左て大の戦ふ彼探獅聖獅授親獅  
們的六妖の輩是を看て一齋の兵器を輪して跪来る行者汝



油



曹天百字口三册



系之百字口三册

僧も鉄棒と振ひ宝杖を閃く彼六妖小相敵七個の妖  
精二個の和尚力量を盡し勇を奮ひ没命的戦ひたり彼  
老妖の陣後小左て他们が戦ひの透間を打探遂小鳥雲  
に打乗て城裡小飛入るが這老妖原九箇の頭有るる  
唐僧と玉萃土父子都て五個を五箇の口小批叩へ城  
外小飛出亦八戒が後身より一個の口を聞さ他が襟を會  
住め餘りの口小て大音小孫兒来と我の日洞中が飯るま  
つと云捨て東南を指て飛去るり行者是を看て借を  
他が計策小中つるよとて急小身外身の法を使ひ一把  
の毛を抜把て数百の小行者と變させ妖精們を取囲こ  
遂小黃御精を打殺し六個の妖獅們を生捉り城中小

軍入るとバ衆位の文武の官人一斎小行者汝僧を拜し  
曰く殿下父子双小唐僧都て皆妖精小合手得らと給ふ  
万望の神師快く是を救ふり行者曰く列位官人夏あか  
夏あか我今亦他が六個の妖精を捉得て質とに  
他官は殿下を傷変る明朝我那里に到る老妖  
と合手得殿下父子を救ふべと旦六個の妖獅們と鉄牽  
小推箆置るる羽吉旦疾起りて行者汝僧と俱小雲小打驚  
女時の間小竹節山小到る雲を下つと尋行小一個の小  
妖山下に上て兩個を看て大に驚き後邊を由見ぬと  
逃行る行者汝僧急ぎ後小看て追行るる小直に一座の  
洞府に到る洞門上小萬靈竹節山九曲盤垣洞と云る

十四回の大字を彫住らる小妖急小門内小逃入て老妖小  
 斯と報多む老妖回て曰く我六個の児孫門に来らざるや  
 小妖曰く唯西個の和尚のま来せと大王輩の見あはれ  
 老妖王是を聞き涙を滝の如く流し偈の我児孫們之  
 都て他小捉得らざるうり這恨我息生報せざるんやと遂  
 小洞門小跳し出る行者沙僧是を看て一命に打て羅  
 老妖却て戦ふ変とせ左八個の頭を差伸く大いり  
 口と張開き灘き行者沙僧を啣へ住め洞裡に飛飯り許  
 女の小妖們小命小繩を取て兩個を堅く細縛させ老妖  
 頭て柳棍を取て行者頭を大太小打々どの行者面  
 小疼む景色もろて居るとろ小老妖教罵に這猴が頭の

堅き変柳忌塵ろる変ろる我且今日捨置明日慢慢  
 微路まへとと兩三個の小妖們小行者們兩個を保守  
 せお老妖の真身の取房錦雲窩に入て安歇るり廿夜  
 行者亦道法の呪を念へ身を此小きて繩を脱出て衆人  
 を脱け出さんと為處小小妖們是を看者大の小味はて  
 迷迷の行者鉄棒を把て走廻るり打殺に此物音に  
 驚死て老妖臥房の裡より飛出るり行者急小身を縦つ  
 く洞外小脱し出空中に飛昇つとろ時勿心も看六用掲  
 帝們的神將一個の土地神と扯帯て雲頭小在るり行者  
 を迎へて曰く大聖是は竹節山の土地神より彼妖措く来  
 聖を知らん為に今呼まつて大聖を拜せむ行者大い

小惟喜則ち土地神ちちのじん小向ちちのこむかひひ妖精まじまじが来歴きらいと尋たずねたるに土地神ちちのじん答こたへて曰いく彼妖精まじまじの遠とほ三年さんねん前まへより竹節山たけふしやま小来きこつとぬ彼かの九曲盤垣洞きうきよくばんげんどうの原はら六個むつこの妖獅まじまじの住すまひ處ところなどなる六獅むつし却かへて老らう女にょと拜まがりて祖翁そおうの洞中どうちゆうの主ぬしと候まをす他たの則すなはち九頭獅子きうとうししの精名せいなの九聖きうせい元聖げんせいと號なづは若他わがたと降くださんと思おもひあり東極とうごくの妖巖宮まじまじみやう小到ちかつと他たの主ぬし公こうと請こひ来きこつと終つひ小降くだ伏ふくを乞こふ他の人ひとの能よく是こゝと降くだは吏能しにへばは行者ぎやう是こゝを問とひて曰いく東極とうごくの妖巖宮まじまじみやうの大おほ乙救苦おつしきう天尊てんそんの住すまひ處ところなり宜よろし座ざ下したに九頭きうとう獅し在ありて看みる者もの皆みな彼獅まじまじ歎なげ降くだて斯かる妖怪まじまじと成なりや我われ決けつく去さて天尊てんそん小是こゝを告つげ討う奉ほうらんと旦た土地神ちちのじんと飯いへめ乍またち勛しん斗雲とううんを縦たつて連つ夜よ小飛と去さ寅いんの剋く討うつと小東ことう天門てんもん小

到いたり直ただに妖巖宮まじまじみやうの門かど小入ちり仙童せんどうと央まと具ぐ小事せうじの動搖どうごうと通とほ下した天尊てんそんに見みえ奉ほうらん吏しを告つげたり仙童せんどう這こゆと報ほうけしと天尊てんそん則すなはち行者ぎやうを宣のたまひ蓮座れんざと下くだして相見あひまへる一行いっぎやう者もの謹こんぶ九頭獅きうとうし下界げがい小降くだして妖怪まじまじと成なり唐僧てんじやう及および王華わうか王父わうふ子こを捉と得とて困こ苦くなる由よしと訟う訴そつと天てん尊そん是こゝと聞き頭あたまて仙將せんじやう小命めいと御房ごぼう小往かうりて彼獅まじまじを尋たずねぬ小九頭獅こきうとうし果はつと房ぼう小在まる御奴ごにょの却かへて前後ぜんごも知しらぬ睡すいて居ゐる仙將せんじやう是こゝを看みて旦た御奴ごにょと打う起たし扯ひ立て飯いへ天尊てんそんの前まへ小居ゐる御ごの那な里り小走ありて房ぼう小在まる却かへて御奴ごにょの睡すいて居ゐる由よしと報ほうけしと御奴ごにょの口くち管くわん泪なみだと流ながし一命いっめいを饒ゆるめへくと叫こゑびたり天尊てんそん曰いく今いま大聖だいせい王わう在あるを以もつ我われ旦た你なんを打うて你なん何なに



武蔵野三徒の三王子玉草の三王子

故小獅と走らぬ亦何の故小然様小睡り居るぞ獅奴大に驚き曰く我前日甘露殿小在て一瓶小酒を偷りて吃し不期沈醉と做獅房の鎖を忘懼て熟睡致し候はれ儲の其間小彼獅走り去ると覺侍ふ万望の我過を饒しぬへ天尊曰く彼酒の太上老君より贈り給りて處の名酒小く輪廻瓊液と喚做是を吃る時の二日醉醒ば天宮の一日の下界の二年を彼獅下界小在る已小二年成へ我今大聖と俱小下界竹節山小降りて他を降伏まべと曰ひく夫より彼獅奴を領跟へ行者と俱小東天門を立出て頭て下界小降りぬふ不孝時竹節山頭小到りて天尊祥雲を住めぬを行者曰く我且他を偽引出し来るべと云

鉄棒を打振て盤垣洞門小到りて忽ち門を打破りて淫怪的快く師父を返せ王子を還せと呼りて老妖是を引く大い小怒り門外小跑りて出勿心ち口を張開き行者を啣んと為處小天尊色を勵し元聖兒我来しるを知りやと呼りてあ人を老妖是を看て驚き勿心ち四足を屈め地上小伏り立上り其時獅奴拳を揚り跑りて羅と這畜田生忘慮りて走去我小罪を受りてむやと他が額を連て打頓り錦轡を他が背上に打掩りて天尊閃りて飛跨りて赤練雲を截り大聖小別を告妙巖宮小還り去ぬふ行者也三蔵悟浄八戒們が綱縛を脱助け出々を八戒汝僧



駈廻つて小妖们を盡く打殺し忽ち一把の火を放つて盤垣  
洞を焼盡し八戒沙僧の二王子父子を背負行者の師父  
を扶けて個々神通を使ひ直に玉華刹小乘皈つて城裡小  
下つてくまの城中大小の文武の官人們都く皆出迎へて礼  
拜し日歡喜の筵宴を囲み皆万歳を誦ひ唐僧師徒們と  
暴沙亭に安歇り次鳥小至つて玉華王旨を傳へて盡  
く大小の官員を召集め大い小素筵を列ね師徒四衆を  
上座小請し君臣個々恩を謝し方般と管待り斯て行  
者も勧進小随ひ六個の獅の皮を剥彼黃獅も俱ふ七個  
の肉を斬分て王府の官員より城中の百姓小到るを盡く  
賊と突へくを城中衆位の宮士百姓們も其大厚徳を感

せざるの無きと有り是より三個の王子悟空輩三個の兵器を  
借て摸様と倣鉄匠を逼迫て鑄せり程小幾日と経て  
三般の兵器全く成就し行者頭て大王子小捧の  
術を傳へ八戒二王子小釘釘の術を傳へ沙僧二王子小宝  
杖の術を傳へる三個の王子一固小の信心堅く二固小の行  
者も神力を受不日に個々精就せるを看て三藏遂に老  
王父子に別を告め之を玉華王再二日足を任せども三藏  
一向小承諾は徒身們を催促て遂小別て立出ぬ玉華王  
父子の只管に別を惜と車駕を準備て遙小送る滿城内  
外の衆人們這四位の聖僧の實小活佛の下界へぬ處を  
つとく街小盈ひ路を塞ぎ盡く香白を焚てぞ拜し玉華

王父子の十四五里餘を送りて行て遂小袖をぞ別ちたる

金平府元夜觀燈

佐英洞唐僧供狀

話表三藏師徒の玉翠刃を離てより亦五六日を經て一座の城地に至る幾條の巷街を過行小還て未だ城小到勿心看一座の山門有門上の額小慈雲寺の三字あり三藏是と看て我今這寺小入女時馬を安歇て行べとて四衆一奇小門小入るるに裡より幾個の和尚出まると三藏則ち東土より西方靈山小到つと佛を拜し徑を要るの末由を仔細説話めを衆僧是を聞て或は三藏の威儀を懼懐或は徒衆們二個が醜さを怕とつ日方丈小請待し寺中の衆僧都て出まるとして相見え急ぎ茶飯を備へ三藏の説話を

見小聞個々賞賚しつるる三藏則ち衆僧小對して這地方の地名を問め人々衆僧曰く此地の金平府と呼て則ち天竺の外郡より天山の地の我共去と赴と雖も思ふ小路程感と違つるに僥倖小今元宵小近けとへ老師一両日滯留し這地の燈火を觀て去め人三藏驚て曰く貧僧路小左と大の小光陰と錯ち過せり今已小元宵小近けや衆僧曰く今日の正月十三日より晚小到つて燈を試と後日十五の即ち上元十八日小到つて燈火を謝を這地本府の大守民を愛し人家都て善を好と今宵よりと燈を飛終た夜群集を傲やと金燈橋といふ橋あり往古より名を住め今に及んが盛んなり老爺輩日荒山小住つと日足と看て



三藏師徒  
 金燈橋  
 夜半燈と  
 看る

日本西遊記四編之五



日本西遊記四編之五

九

後西方に趣きあ人と懇心懇小住め々々小ど二藏止言を得  
む透小恙云寺に宿ぬひ々の其夜早城中の衆人都を燈  
を送り来りて佛小献ぐ佛殿上小鐘鼓の音喧々々々熱鬧る  
光景の中幸の元宵小異々々夜次の夜二藏亦街上の燈  
火と看歩行透小十五夜の節小到り本寺の衆僧小  
透引也行者分輩二個も領列立り街とを遊覧と彼金  
燈橋上に到りて二盞の金燈あり其燈燈電の上と金  
絲と以て蒼藤小編兩層の樓閣と單ひ琉璃と以り  
裡と張其幌と月光の如く香氣有て紛紛と衆里小散  
ば二藏是を見て此燈火何の油を用ひて這様小香氣有  
やと問あ人を衆僧答く曰く老師父是を知ぬれば此油を

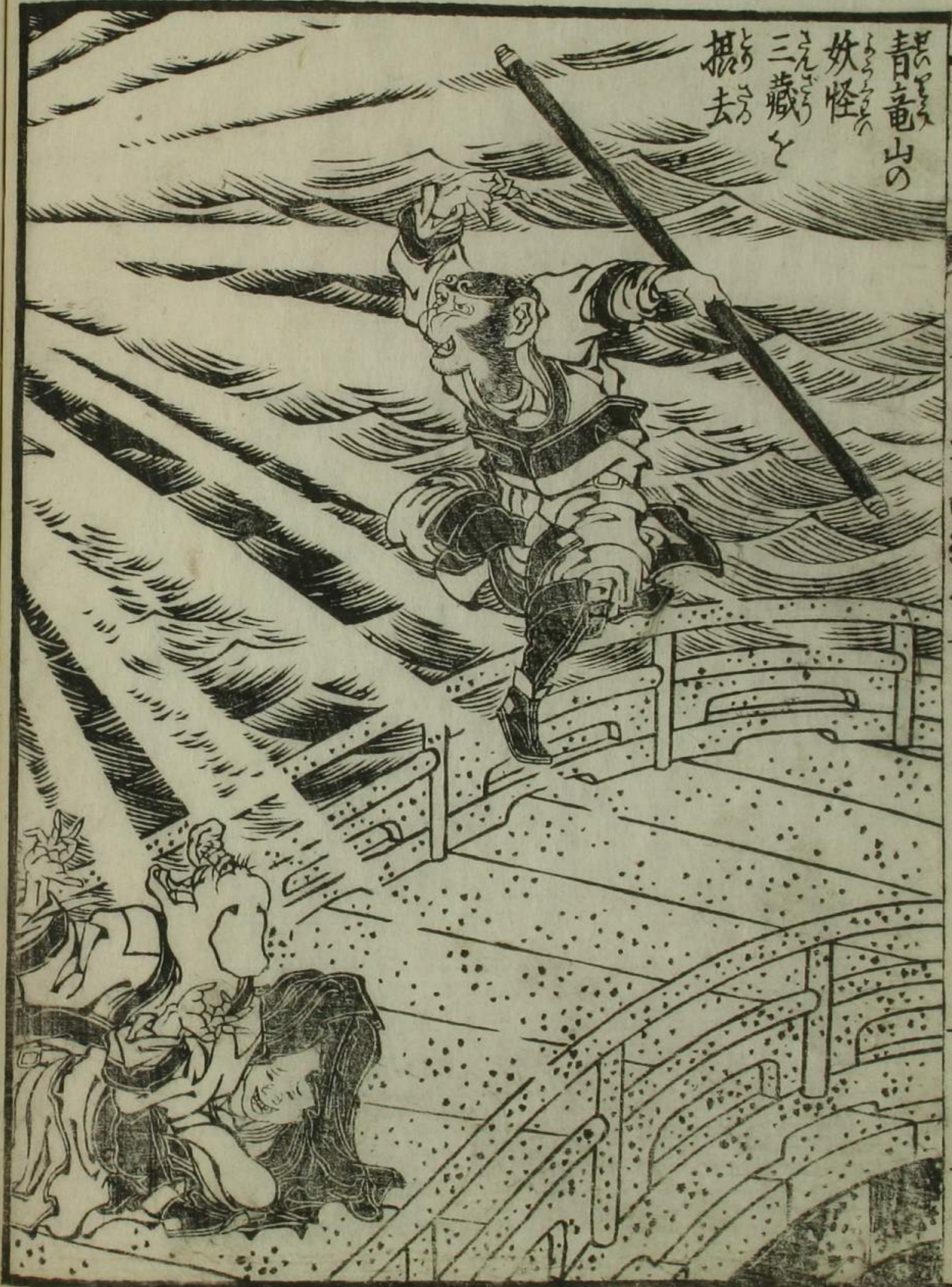
尋常の油小有れば是皆酥合香油なり此金平府の後邊小  
吳天縣と云る處あり此縣小二百四十家の燈油の大小あり  
此大小一家毎小二百余兩の銀子を費し大なる煩勞あり此  
油一斤の價銀子三十二兩三盞の燈火一盞毎小油五百斤三盞  
價小合せて二十五百斤銀子合せて四万八千兩小誤る亦雜項  
の使用を加へて五万餘兩を以て唯三夜の燈火と費し以行者  
曰く其許若の油息生只三夜小用ひ尽とも衆僧曰く一盞  
毎小四十九條の燈草を扎りて的條綿小裏を用ひる小羊夜  
の頃佛爺像と現る人を則ち燈火闇くする油都て乾き  
失ぬ八戒笑つて曰く偕佛爺油を收め歸つとあり衆僧  
曰く笑小長老の曰く如く往古より佛爺油を收めんと云

傳へり若亦此燈籠を献ぐる年の五載實に荒旱つらと這  
 故小年々斯の如く燈籠を揚るるりと未だ云中終る小忽  
 ち半空に一陣の風吹来り物醜き形勢多し数万の觀  
 燈的狼狽跑り諸早佛爺の来りぬらりと喚き嚷ぎ皆我  
 前小と四方小逃散一個も在ら成小なり衆僧們も三藏を扯  
 く佛爺降つとぬ快く爰を避るんと諫勸多し三藏曰く  
 我の原未佛を拜せんと要る者有り果て諸佛降臨あらむを  
 我の爰小在て拜せぬ那も佛爺を看て逃走る爰有んやと  
 云て却て橋上小前と出ぬ時風の増々盛ん小吹風の裡より  
 三尊の佛体现つと出ぬ二藏尚も橋上に登りて是を拜し  
 めふを行者身後より呼つと師父快く飯を食へ他人の皆妖

精ろりと急小師父を救んと為間小三盞の燈火一時小暗  
 くより空中より彼佛怪手を指延くと三藏を扯摑と雲を  
 縦つて飛去る八戒悟淨大り小驚き是急慮と呆擗居を  
 行者曰く你輩日衆僧と俱小寺に飯と行李と白馬と  
 保守べ我今這風小從ひく追去べと云捨て急ぎ勦手  
 雲小飛駕て彼腥風を慕ひ東北と指て追往天明小及  
 んで一座の險山小下つと女時彷徨窺ふ處小勿心ち四值  
 曾像を現し出来り行者を迎へ拜し大聖今妖怪を尋ぬ  
 め小路を覚めぬと怕を我未つて傳報と叫ぶと行者  
 行者急ぎ問て曰く這山の何と云る山ぞ然而妖怪の那里小  
 隠し住つ功曾曰く此山の青竜山と号しと山中小一座の

佐英洞あり洞中小二個の妖怪あり其大的と辟寒大王  
 と呼第一と辟暑大王と呼第二と辟塵大王と号く他等  
 爰に在事千年小及ぶ常小酥合香油と食するを愛し  
 假小佛像小粧て金平府の人民を欺惑し毎年正月元宵  
 那里小往て若干の油を收て飯し一年の食小交ふ今年唐  
 師父と看小依て遂小提て洞中小飯し今彼香油小煎  
 て吐小し大聖快く是を救い他が巢穴の是より五六里  
 這石崖を廻りて往めんと教る小ぞ是を引く行者急ぎ石  
 崖の下を廻りて五六里餘り過行看り果て一座の洞府有石  
 門の一邊小一固の石碣あり青龍山佐英洞の六字あり行者  
 門外小立て妖怪快く師父を返せと呼せし門裡より幾個

の牛頭の小妖精走し出行者を見て言て曰く你の是那  
 里より来たる的ふく急麼門前を闹しや行者曰く我を  
 大唐聖僧の徒弟なりと你が家の魔頭昨宵金平府小来て  
 我師父を拿飯せり今快く師父を還さし你们が一命を助  
 けし小妖們是を聞て急ぎ裡小入て三個の妖怪小斯と報  
 たり彼妖怪們的金平府より唐僧を拿へ飯し油小煎んと  
 て万般商議して在る處小小妖が斯るを告る小ぞ大  
 小驚き且這和尚が姓名来歴を問へしと三藏と前頭小扯  
 居二妖怪異口同音に問く曰く你の那國より来たる者  
 小何なるを佛像を見て避退るは却て我輩が取小選  
 小出するぞと三藏答て曰く貧道の東土大唐白王帝の勅の家



つて西方大雷音寺小到つて佛を拜し經を求るの僧も昨  
宵金燈橋小在て大王の佛像を現下ゆゑと看小貧僧肉  
眼凡胎をも只管佛爺と拜する更よそ心得却て大王を  
犯し奉じり万望の這罪を饒し雷音寺小到りぬ人老奴曰  
く你が東土より爰小到るの路大々遠く你尚同行あや亦  
你が姓名の奈何你実を以て是を告げ性命を饒し故を  
べし三藏曰く貧僧が法名の陳玄奘亦三藏と号し尚三箇  
の徒弟あり一個の孫悟空行者則聖天大聖の帰正なり二奴  
驚いて曰く其聖天大聖の五百年前大い小天宮を闹せし者  
小有びや三藏曰く則ち其天宮を闹せし的なり亦三箇の  
猪悟能八戒則ち天蓬元帥の轉世なり三箇の汝悟浄和尚則

ち掃羅大将の臨凡なり二箇の妖怪是を闹て互小面を看  
合せ我輩傍伴小ゆるが他と吃りば一旦他と後園小郷ゆ  
置彼三箇の徒弟們と拿てのち一肴小喫て是を吃し之と  
云ふる處小亦一個の小奴走り来りし彼和尚當下門を破り  
侍を報りたる二奴怪急ぎ一群の牛精小奴們と扯領て  
個々各機を扯提つて外小跳し出行者を看て罵り曰  
く你の天宮を闹せし孫悟空なるよそ元来這程の小奴  
く此虚名あり你今爰に来りし我輩を存心虐せんと思ふ  
者大の小奴曰く汝和を偷り大賊怪言を言する更ん勿し  
快く我師父を送り来せ然るに你们と慶小候べきなりし鏡  
棒を把り亦て羅ち三箇の妖怪一個の越斧を使い一個



大刀を閃く一個の長鎗を打振て行者一個の相敵は百四五  
 十合戦ひたり身後小懸し若子の牛精の小娘们一堆小死  
 づ行者を中小取用と一倉小責立る行者及勢に敵は難く  
 遂小空中小飛昇ると雲と縋つて脱去急小急雲寺小飛  
 飯の運動搖を仔細語り戒汝僧を引領て又一倉小雲小駕  
 青童山へぞ飛行る



繪本西遊記四編卷之五 五



